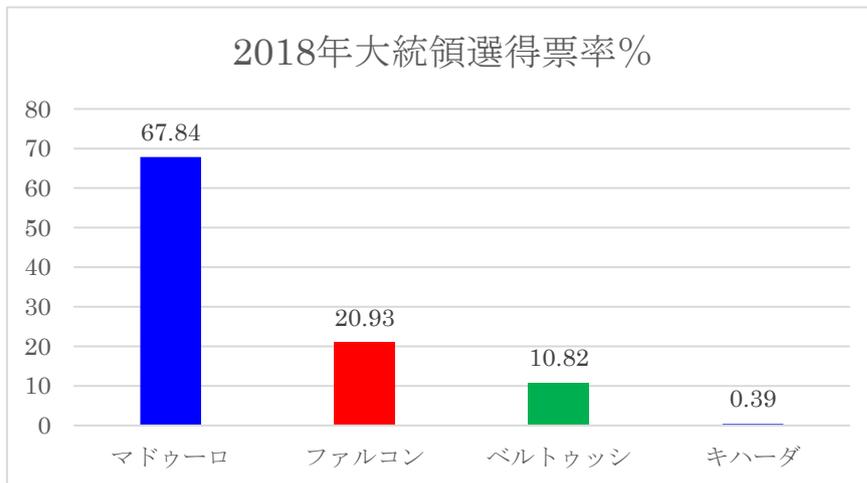


ベネズエラ大統領選挙をどう見るか（3）

今回の大統領選では、何が争われたのでしょうか。与党1名、野党3人の候補者は、それぞれの政策を掲げ、投票を呼びかけ、MUD（民主団結会議）は、選挙は不当であると棄権を呼びかけました。

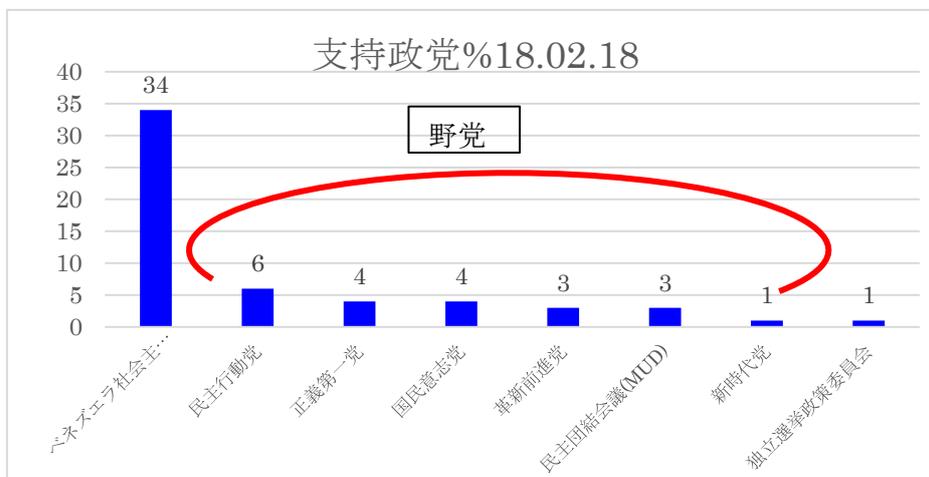
意識的棄権はどの程度だったか

ベネズエラの選挙では、2012年以降、棄権票の増加が続き、最近では20%～25%になっています。いわば、約700万票が、「(歴史的) 固定棄権票」といえます。今回は、これにMUDに呼びかけられた、「意識的棄権票」約430万票があります。選挙賛成が44%（920万票）、選挙反対が21%（430万票）、(歴史的) 固定棄権が34%（700万票）ということになります。その意味では、「低い投票率」と批判するのは、余りにも皮相的な見方でしょう。選挙の結果は次の通りです。



出所：CENより筆者作成。

なお、本年2月の世論調査によれば、支持政党率は下記の通りでした。

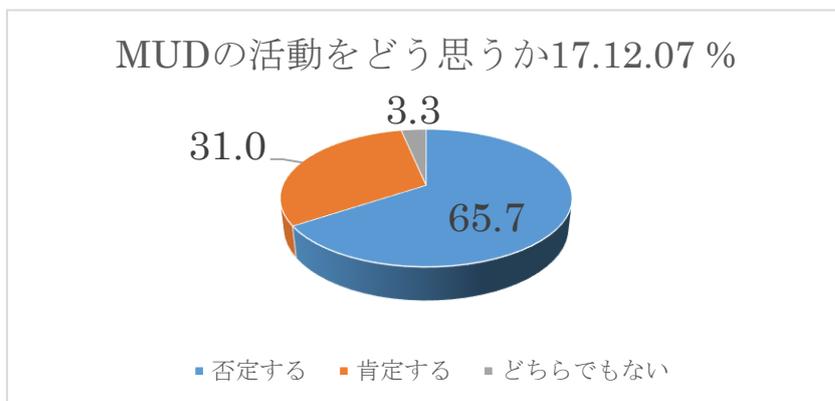


選挙結果は、事前の世論調査と同じ

今回の選挙結果は、事前の世論調査とも傾向が同じで、このことから不正選挙との指摘は当たりません。ベネズエラ選挙システムは、前回の2013年の大統領選でも2015年の国会議員選（反チャベス派が多数派となる）でも使用された正確な投票集計システムで、システムの途中で不正操作はできないシステムで、唯一操作ができるのは、最終集計を操作するだけといわれています。しかし、最終集計室には各党の立会人がおり、捜査は不可能です。このことは、今回の選挙の立会人として参加したジェレミー・フォックス氏が、EUのモンゲリーニ氏に送付した書簡でも明らかです。ベネズエラ選挙の投票方法、集計方法の正確さについては、拙稿「ベネズエラ選挙投票における奇妙な数字」17.08.12を参照ください。

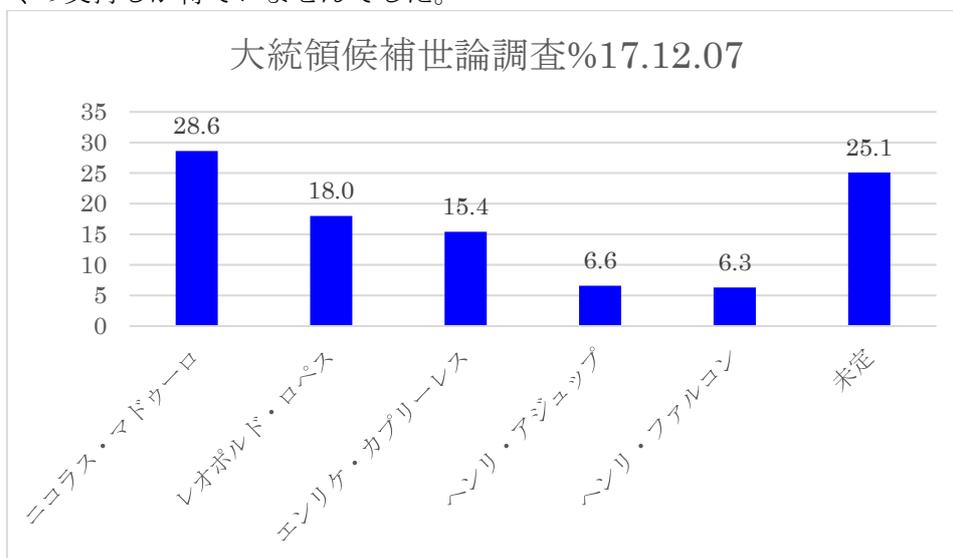
選挙は、マドゥーロ対野党という構図ではありません。選挙は、有権者数20,527,571人、投票数9,205,809票、投票率40.06%で、拡大祖国戦線（FAP）（ベネズエラ社会主義統一党他9政党が参加）のニコラス・マドゥーロ候補が、得票数6,245,862票、得票率67.84%を確保し、進歩的前進（キリスト教民主党など3政党が参加）のヘンリ・ファルコン候補、得票数1,927,387票、得票率20.93%、変革希望運動のベルトウッシ候補が得票数996,000*人、得票率10.82%、レイナルド・キハーダ候補が得票数36,560*票、得票率0.39%を大きく引き離して当選しました。選挙結果を、選挙をボイコットしたMUDは当然認めませんが、ファルコン候補を除く、ベルトウッシ候補、キハーダ候補とも結果を承認しています。つまり、727万人（投票数の78%）が結果を承認しており、ファルコン候補とMUDの不承認数622万（筆者推計）を100万人上回っています。*正確な最終発表なく、筆者推計。

また、主要な野党の候補者が事前に排除されたので、マドゥーロ候補の勝利は当然だったという指摘があります。しかし、反対派のMUDの暴力破壊活動デモは、国民の信頼を失っています。下記のグラフのように、国民の3分の2近くが否定的で、対話・和平路線を望んでいました。レオポルド・ロペスやエンリケ・カプリーレスは、それぞれ暴力事件や汚職などで服役中で、選挙に参加する資格はありませんでした。



出所：Venebarómetroより筆者作成。

したがって、これらの両氏、マドゥーロ氏も入れた世論調査でも、いずれの候補も半数近くの支持しか得ていませんでした。



出所：Venebarómetroより筆者作成。

選挙戦では何が争われたか

それでは、大統領選挙に立候補した候補は、それぞれ何を掲げて戦ったのでしょうか。

- マドゥーロ候補は、ボリーバル革命の矯正と継続、住宅建設、インフレの克服、買い占めの統制、通貨の安定、経済戦争に打ち勝ち経済の再建、PDVSAの国有化の維持を訴えました。
- ファルコン候補は、2013年の大統領選時、カプリーレスの選挙責任者でしたが、今回、MUDの選挙不参加を批判し、MUDと袂を分かち選挙に参加しました。救国政府の樹立、経済のドル化(公的・私的勤労者の賃金のドル払い)、PDVSAの投資に民間資本を許可する、医療・食料の人道支援の容認、政治犯の釈放、100万人の雇用の創出を訴えました。
- ベルトウッシ候補は、福音派キリスト教のマラナタキリスト教会の指導者です。石油関係企業、輸出業界との関係が強く、パナマ文書で違法行為が暴露されています。経済の復興を強調し、医療・食料の人道支援の容認、政治犯の釈放を掲げましたが、経済のドル化は経済主権の喪失として反対し、与野党以外の第三の道を主張しました。
- キハーダ候補は、チャベス没後、チャベス派から離脱。1992年のチャベス・クーデターを市民運動として支援。「積極的な中産階層運動」に参加し、チャベス政権のポルトガル大使も務めました。しかし、マドゥーロの経済政策、通貨政策に反対しました。

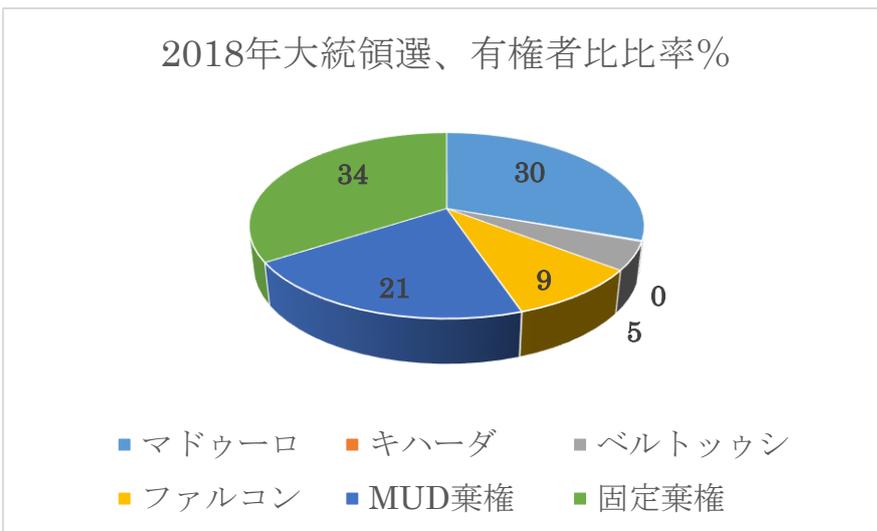
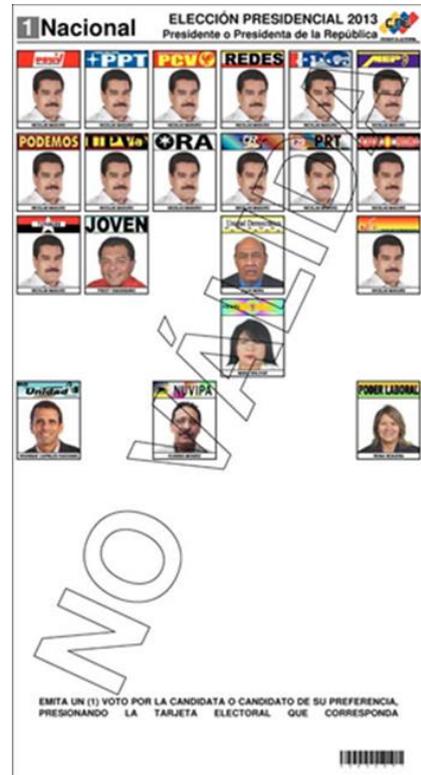
ベネズエラには、現在30近い政党が存在し、この選挙に参加した政党数は、与党が10政党、野党が3政党、棄権を呼びかけたMUDに16政党が参加しています。棄権を呼びかけたのも政策の一つで、呼びかけたMUDの16政党は、選挙前後弾圧されてはいません。民主主義が機能

していないという指摘は、事実にあいません。

なお、大統領選のMUDが選挙登録時に登録を違法に拒否されたという指摘がありますが、ベネズエラでの投票は、それぞれ候補者の支持を決定している選挙リストから政党を選び、政党得票数が候補者の得票として集計されます。そこで与党は、10の政党がそれぞれの政党名を登録し、拡大祖国戦線という選挙ブロックを結成し、マドゥーロ候補を支持しているのです。ですから、MUDという政党名で登録すると、MUDを構成している16の政党が政党登録を行うので、MUDが二重登録となってしまいます。拙稿「ベネズエラ、大統領選挙をめぐる真実とは？」18.01.29 参照。右は、選挙登録リストです。

選挙戦は熾烈な三つ巴戦だった

今回の選挙戦は、選挙に参加する政党で、与党と野党、選挙の棄権を呼びかける政党が、それぞれどれだけの支持を得るかという熾烈な三つ巴戦でした。そこから見ると、下記のグラフのように、有権者の34%が棄権し、マドゥーロは有権者の30%、MUDは有権者の21%、ファルコンは、有権者の9%、ベルトウッシは有権者の5%の支持を得たこととなります。棄権が増えましたが、これはMUDの政策が支持されたからでなく、歴史的固定棄権層に、経済危機からチャベス派の支持が100万減り、棄権に回ったことから来るものです。



出所、CENの資料をもとに筆者作成。

与野党の政策の相違の分岐点はどこにあるか

これらの政党が、どういう政策から与党になっているのか、野党になっているのかを下記に表で示しました。政党名の下欄の数字は、通常国会の議席数、県知事数、基礎行政区区長数を示すものです。それぞれの政党は、独自の政策を掲げており、与野党の間ではもちろんのこと、与党内部でも（例えばベネズエラ社会主義統一党とベネズエラ共産党の間）、野党内部でも（例えば民主行動党と国民意志党の間）激しい議論が戦わされています。ここには、ベネズエラで、多党制の民主主義が機能していることがうかがわれます。ベネズエラでは民主主義がないというのは、一面的な見方です。

この表からは、与党と野党を区切る政策は、新自由主義と対米自立政策であることが分かります。与党は、国民の福祉に力を入れつつ、貧困の克服、大手資本による横暴な市場活動の取締り、基幹産業の政府による運営、経済回復を主張しています。また与党は、こうした政策を好まない米国の圧力に対して自主的な態度を取り、主権の擁護を強調します。一方、野党は、新自由主義にもとづく完全に自由な市場経済、基幹産業の完全な民営化を要求しています。そして野党は、こうした経済体制を保障して、支援してくれる米国の政策に従属しています。米国に追従してマドゥーロ政権を非難するリマ・グループ諸国も、EU諸国も、この表に入れて考えると、野党とほぼ同じ内容をもっており、なぜ野党よりの声明を発表するか、良く理解できると思います。

言論を通じての立場の違いの解決を模索

今回の大統領選挙の結果について、客観的報道というよりも、最初からマドゥーロ政権を野党を排除する独裁政権、失敗国家、破綻国家と決めつけ、国民が実際にどう考えているかを軽視した報道が圧倒的な量で行われました。しかし、結果は、国民が望んでいる通りの選挙結果だったといえます。

選挙は、与党の勝利に終わりましたが、マドゥーロ大統領とベルトウッシ前候補、キハーダ前候補と、対話と和平会談が進められています。ベルトウッシ前候補は、政治犯の釈放、医療・食糧支援の受諾、選挙違反の究明をマドゥーロ大統領に提案し、大統領は、これらの提案を受けると発表しています。また、大統領選挙と同時に行われた県議会選挙では8人の野党議員が選出されており、これらの野党議員は制憲議会で宣誓式に出席しています。言論を通じての意見の違いの解決の道が模索されています。

(完)

(2018年5月29日 新藤通弘)

政党名 議席：国会/県知事/基礎行政区長	国民の 福祉	自由市 場	新自由 主義	対米自 立	キュー バ関係	社会主 義
与党：拡大祖国戦線（FAP） 10政党 2015年国会 55/167						
ベネズエラ社会主義統一党（PSUV） 2008 30/19/303	○	○	×	◎	◎	◎
われわれはベネズエラ（Somos Venezuela） 2018 0/0/0	○	○	×	○	◎	○
ベネズエラ共産党（PCV） 1931 6/0/1	◎	△	×	◎	○	◎
皆のための祖国（PPT） 1997 4/0/2	○	○	×	◎	○	△
革命行動運動実施党（Tupamaros） 1979 3/0/0	○	○	×	○	○	△
ベネズエラ国民団結（UPV） 2008 1/0/0	○	○	×	○	○	△
社会民主主義党（PODEMOS） 2002 2/0/0	○	○	×	○	○	△
野党						
変革希望運動（MEC） 2018 0/0/0	△	○	△	○	×	×
進歩的前進						
キリスト教民主党（COPEI） 1946 1/0/14	△	○	△	△	×	×
社会主義運動（MAS） 1971 0/0/1	△	○	×	△	×	△
民主団結会議（MUD） 16+2政党で構成 2015年国会 109/167 +3（先住民）						
民主行動党（AD） 1941 25/4/0	△	○	○	×	×	×
正義第一党（PJ） 2000 33/0/0	×	○	◎	×	×	×
国民意志党（VP） 2011 14/0/0	×	○	◎	×	×	×
新時代党（UNT） 2006 15/0/7	×	○	○	×	×	×
急進大義党（CR） 1971	×	○	○	×	×	×
リマ・グループ14カ国	×	○	○	×	△	×
EU諸国	△	○	○	△	△	×

出所：各種資料から筆者作成